

## 平成 25 年度 事業報告

社会福祉法人富山城南会

### 1. はじめに

平成 25 年度は介護報酬改定 2 年目となり、各種加算要件の見直し等、各施設とも収入確保に努めた。しみずまち敬寿苑が 7 月にリニューアルオープンし、短期入所、通所介護サービスが本格稼動し始めたことによる収入増が寄与した結果、法人全体では増収を確保した。支出の面では人件費、及び燃料費等の増加が大きく経費増となった。法人全体としては事業活動収入 3, 4 4 7 百万円（前期比+1 5 7 百万円）、同支出 3, 3 4 1 百万円（前期比+2 5 0 百万円）、同収支 1 0 5 百万円（前期比－ 9 3 百万円）と増収減益となった。

### 2. 老人福祉施設、介護老人保健施設の運営

前述の通りしみずまち敬寿苑の増収分 1 4 1 百万円が法人全体の増収に寄与したものの他の施設は概ね苦戦を強いられた。とりわけ敬寿苑は前年度よりしみずまち敬寿苑の利用者、職員を多数受入っていたこともあり通所介護を中心に減収となった。また婦中羽根ゾーン施設で燃料設備の不具合発見が遅延し、無駄な費用を計上したこともあり、経費増の要因の一つとなったことは大いに反省しなければならない。

### 3. 幼児、児童福祉施設の運営

婦中もなみ保育園、光陽もなみ保育園とも期初より保育士の確保に努め、安定した運営に心がけたが、受入園児数は伸び悩み、収入面では横這いとなった。城南もなみ学園は保育園の認可 2 年目で幼稚舎園児の確保には依然苦戦しているものの保育園への園児シフトが手伝い、運営費、補助金など全体の収入増につながった。放課後児童クラブは開設 2 年目の婦中もなみ子どもクラブについては期初より会員の確保に努め増収となった。

### 4. その他

昨年続き、本年はふるさと敬寿苑でノロウイルスの流行があり、収束まで 1 か月超を要した。様々な業務制限により収益的には大幅なマイナス要因となった。